自己有用感を育むピア・サポート活動の実践的研究

1　主題設定の理由

いじめの防止、他人を平気で傷つけること（暴言・暴力）の抑制、規範意識の醸成は全国的な課題であり、本校においても例外ではない。昨年度は、授業中に立ち歩いたり、大きな声で私語をしたりするなど授業妨害をする姿が見られた。友だちとのかかわりにおいても、すぐに手や足が出たり暴言をはいたりする姿が見かけられた。

こういった課題を解決するためには自己有用感を高めることが重要であると言われている。自己有用感とは、他人との関係の中で自分の存在価値を感じることである。自己有用感を育むには、異年齢の交流活動が効果的であり、学習指導要領にもその重要性が謳われている。

一方、ピア・サポート活動はいじめや暴力行為等の問題行動を解決するために開発された活動である。ピア・サポートとは仲間同士の支援である。

本校では、かなり以前より、なかよし班活動（縦割り班活動）を実施している。これは、広い意味でピア・サポート活動と捉えることができる。また、「お出かけピア・サポート」と称して、3年前より進学先である○○中学校1年生が本校・園の幼稚園児（本校は○○幼稚園を併設）と1年生から5年生までの児童を対象にピア・サポート活動を行っている。これらの活動が、子どもたちの思いや行動にどのように影響しているか検証し、その有効性を明確にしたい。

2　研究のねらい

ピア・サポート活動としての実践している縦割り班活動やお出かけピア・サポート活動が、自己有用感の育成にいかに有効であるかを検証する。

3　本校の実践

(1)　なかよし班活動

本校では、なかよし班活動と称して、縦割り班活動を行っている。これは、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアの学年となり、異年齢混在で10人程度の班を作って活動するものである。子ども同士の繋がりが強くなるように、班は1年間を通じて同じメンバーで構成する。

4月12日　はじめましての会 ： なかよし班で活動のめあてや「あそびましょう」の計画を作り、1年間一緒に活動することを確認し合った。各班の上級生は世話をする立場という自覚をもって活動に臨む姿がたくさん見られた。「あそびましょう」は、年間8回、昼休みや特活の時間を使って一緒に遊ぶ。上の学年が下の学年の子たちが楽しめるように様々に工夫をする。

5月17日　○○子ラリー ： 詳細を後述する。

5月31日　クリーン作戦 ： 学校環境デーに合わせて、なかよし班で、校内の除草作業を行った。上の学年の子たちには、下の学年の子たちが活動できるように工夫しながら、手本となるようしっかりと取り組む姿が見られた。下の学年の子たちは、上の学年の子たちの力強さを感じたようである。

【子どもの感想】　～「3－2学級だより」から～

5年生がすごかったです。なぜかというと、りょう手ですごいスピードを出していたからです。わたしもやってみると、ゆびがすごくいたかったです。来年はがんばります。／5年生の○○ちゃんが、軍手をかしてくれたので、うれしかったです。

6月　スポーツテスト ： これまで5年生で実施していたが、今年度から全学年で実施することにした。教師の説明で分からない場合への対応や、回数を数えたり記録を行ったりするための補助として、なかよし班を活用することとした。上の学年の子たちは、意欲的に下の学年の子たちとかかわる姿が見られた。

6月15日　「あそびましょう」　～「5－3学級だより」から～

5年生と3年生で「あそびましょう」が開催されました。どのゲームでも大きな声を出したり、盛り上げたり、きびきび動くことができました。3年生に積極的にインタビューをしている子もたくさんいました。後日、3年生から、「5年生がびしびし動いていてすごいと思いました。」や、「来年、私たちが4年生になったら、5年生のようになりたいと思います。」など、感想をいただきました。5年生として良い姿を見せることができました。

6月28日　「あそびましょう」　～「6－2学級だより」から～

28日の特活の時間にペア学年の1年生と「あそびましょう」をします。昨日は6年生だけでお試しをしてみました。実行委員の子たちは、「声が小さかった。」「説明がうまく伝わらなかった。」「おしゃべりしているのを注意せずに進めてしまった。」と自分たちを反省し、次に生かそうとしていました。6年生らしい姿ですね。

～「1－2学級だより」から～

「あ～おもしろかった」「またおにいちゃんたちとしたいな」と楽しくてしょうがない様子でした。教室に帰ってきてからも、「もっとあそびたかったなぁ」とつぶやく声が聞こえ、1時間があっという間でした。

11月15日　長なわ集会 ： なかよし班でたくさん跳べるように取り組む。1ヶ月くらい前から休み時間を利用して、練習を繰り返す。他の班との競争ではなく、回数多く跳べるように協力し合い、それを評価しあう。

2月「ありがとうの会」 ： 1年間一緒に活動できたことや、お世話になったことへの感謝の気持ちをお互いに伝え合う。

(2)　〇〇子ラリー

〇〇子ラリーは、なかよし班で行う伊坂ダム周遊道路を活用したオリエンテーリングである。4箇所のポイントにはクイズやゲームがあり、クリアできないと次に進めない。各ポイントをクリアすると、キーワードが渡される。ゴール直前には、そのキーワードを使ったクイズがあり、正解するとゴールとなる。各クイズやゲームは、全員が協力しないとクリアできない仕組みになっている。

当日は、長い距離を低学年の子に配慮しながら歩いたり、クイズやゲームではクリアできるように全員に声掛けをしたりするなどといった姿がたくさん見られた。

なかよし班で昼食を食べた後は、なかよし班での遊びである。ここでも高学年が低学年のために色々と工夫していた。帰りも班ごとに帰ることになっている。疲れてきた低学年に、声を掛けたり、手を差し伸べたり、リュックを持ってあげたりしながら、帰ってきた。

〇〇子ラリーを終えて、5・6年生の感想を分析してみると、低学年に対していかに配慮していたかといった様子や、達成感や充実感を味わったといった内容が8割以上の子どもに見ることができた。

【子どもの感想】

5年生 ： 帰りの途中にペアの子が「あ～楽しかった」といってくれたので、がんばったかいがありました。／3年生は下の学年最後のウォークラリーでした。（私や私たちのことが）見本になれたらいいなと思いました。／来年は1年生がペアなので楽しく過ごせるようにがんばります。／このウォークラリーで学んだことは、自分のことだけでなく、他の子のことも考えるのが大切だということです。／ペアの子のリュックを持ってあげたのは、2年3年の時に自分がペアの子にリュックを持ってもらったので、自分も4年生や5年生、6年生になったら持ってあげたいなと思ったからです。

6年生 ： 1年生の子は最初のウォークラリーなので楽しんでもらえるようにサポートしてあげようと思いました。／「トイレに行きたい」と1年生の子が言って、周りを見わたしてみたら、トレイがなかったので、森の中でさせることにしました。班がおくれてしまうので、「先に行っといて」と言って…。（トイレが）終わったら、1年生の子は「つかれた」と言ったので、荷物を持ってあげることにしましたが、なかなか班に追いつけず…。弁当を食べてから、すぐに遊びに行って行方が分からなくなったり、（帰りの道では）その子が疲れて、…荷物をもってあげたりと大変でした。しかし、1年生の子と関係が深まったのでよかったです。／1年生は松ぼっくりなどを見つけるとすぐに拾いに行ったり、歩くのを止めようとするので背中を押してあげたりしないといけなかった。1年生を連れて行くのは疲れました。けど、帰ってきたらすごく達成感を感じました。／最後に、「楽しかった？」と聞くと、「とても楽しかった。」と言ったので、こっちまでも楽しくなりました。／帰り道、ペアの子が「次はいつ遊ぶの？」と聞いてきたので、「水曜日の休み時間だよ」と返したら、「早く水曜日になってほしいね」と言っていたので、関わりが深まったような気がしました。

(3)　お出かけピア・サポート活動

本校では、3年前より進学先である〇〇中学校1年生が本校・園の幼稚園児と1年生から5年生までの児童を対象にピア・サポート活動を行っている。お出かけピア・サポート活動では、それぞれの母校に出向く。実施して3年目になることから、今年度、初めて、サポートされることを経験した子どもたちが、サポートする経験をする。

活動中は、担任の指示で学習支援などのサポートを行ったり、給食時間や休み時間にはサポートを意識して小学生の子どもたちにかかることとなっている。年間3回実施するが、子どもたちの繋がりがより深くなるように、サポートに入る学級は3回とも同じ学級としている。

6月17日　第1回お出かけピア・サポート活動

本校卒業生の〇〇中学校1年生72名（特別支援学級籍2名を含む）が、幼稚園・1年生～5年生の各クラスに5～6名に分かれて活動を行った。授業としては、国語、算数、理科、体育、図工、音楽、英語活動と多岐にわたった。幼稚園では、外遊びと全体活動であった。

～お出かけピア・サポートのお礼の手紙から～

5年生 ： ピア・サポートでは、勉強を教えてくれて、ありがとうございました。ていねいに教えてくれたので、すごく勉強がたのしくなりました。また、今度もおねがいします。次のピア・サポートの日をたのしみにしています。ありがとうございました。／わたしも、中1になったとき優しく接しようと思いました！

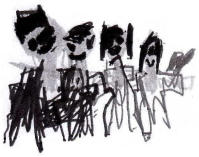
4年生 ： 算数を教えてくださって、ありがとうございました。ともて分かりやすかったです。また来てくれるのをまっています。

3年生 ： きのうは国語をおしえてくれて、ありがとうございました。とても楽しかったです。ぼくが中学生になったら、がんばります。／いろいろおしえてくれたので、ぼくはうれしかったです。ぼくもそんな中学生になりたいなと思いました。

2年生 ： いろいろおしえてくれてありがとうございました。また10月におしえてください。わたしもはやくあいたいです。またどこかであったらこえをかけます。おにいさんたちのこと大すきです。

1年生 ： あそんでくれてありがとう。またきてね。くるまでまってるね。

幼稚園 ： 文字が書けませんが、楽しかった思いをいっぱいの絵で表現していました。



【園児が描いたお礼の絵】

～中学生　自己アンケートから～

休み時間もたくさん遊べたし、話もちゃんと聞いてくれてよかった！そして、勉強をうまく教えられるように日々の授業から頑張りたい！／小学生と仲良くするのは難しいと思ったけど、楽しかった。人に教えるのがとても大変で疲れたけど、短い時間でも楽しめるとても良い時間を過ごせたと思った。次回はもっと自分から話しかけていきたい。

～本校教員のアンケート結果～

「お出かけピア・サポート活動」の取組全般について

とても良かった	50%	良かった	50%
良くない	0%	かなり良くない	0%

自由記述から ： 廊下でボールを取り合いしていた子たちに対して、優しく語りかけるように整理してくれた男子がいました。名前を呼びながら、「ジャンケンで決めるって約束しただろう？　守らなくっちゃ。」と諭している姿がありました。／サポートしてくれることを見本として、小学生の縦割り班活動に活かしていきたいと感じている子も多いです。／この機会はお互いの子ども達が温かい心や受け入れられる嬉しさ、自己肯定感を感じるいい機会だと思っています。今後も継続していきたい！

4　研究の成果と課題

実践を振り返り、まとめをしてみると、様々な場面で感謝の気持ちが伝えられており、自己有用感が高められていることが分かった。また、高学年では、低学年との関わりから、ピア・サポート活動に限らず、もっとがんばってやっていこうという思いになったり、低学年では、高学年の姿をみて、あんなふうになりたい、もっとがんばりたいという気持ちになったりしていることが分かった。

こういった姿や思いにいたるのは、長年、取り組んできたなかよし班活動の実践に負うところが大きい。自分が親切にされてきた経験が、次は自分が親切にしてあげようという思いにいたるのである。一方、「お出かけピア・サポート」は、本校の卒業生である中学生からサポートを受けることや、低学年では年齢が離れていることから、その効果は大きい。

本年度になって、授業中の立ち歩きや友だちへの暴力がほとんどなくなった。子どもたち自身の頑張りに加え、子どもたちの実態に合った指導方法の改善や環境の整備が功を奏したと分析している。しかし、実践を振り返ってみると、子どもたち自身の頑張りの根底には、何より自己有用感の醸成がある。今後も「なかよし班活動」や「お出かけピア・サポート」をぜひ続けていきたい。